
和風花伝

南方廻音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

和風花伝

【Nコード】

N8253X

【作者名】

南方迴音

【あらすじ】

花がモチーフの登場人物がでてきます。

ちよつとファンタジー。

登場人物達の出来事を思い付きでかいてます。

百合奈は夜道を歩いていた。

少し長い着物の裾を軽くあげ、光る蝶々の明かりを頼りにキヨロキヨロしながら。

「魅薔薇御姉様ったら、なんて絵が下手なんでしょう！」

片手に持った手書きの地図はとても雑で地図と呼べる代物ではなかった。

ムツと一瞬頬を膨らせ、ため息をつく。

魅薔薇を責めても仕方ない。これはいつもの事。きちんと自分で調べなかったのがいけないのだ。

並ぶ長屋も、時々現れる大きな屋敷も、話に聞いている建物とは程遠い。

再びため息をつき、百合奈は地図を懷に直して顔を上げた。

もう、こうなったら誰かに聞くしかない。

百合奈は出来るだけ歳の近い人を探し、話し掛けた。

「あの。道をお訊きしたいのですが。」

「ええ。構いませんよ。」

紅い着物に黒髪を高く結い上げた、綺麗な容姿のその人はふっと微笑んだ。

親切なその態度に百合奈はこれについていると思った。

「貴方。何処へ行きたいの？」

優しい人はおっとりと言った。

「はい。」

百合奈は直した地図を取り出して、かろうじて読める文字を読み上げた。

「蕨の…夕波亭？だと思います。」

すると優しい人はクスクスと綺麗な声で笑って言った。

「と思うって、可笑しな人。」

そしてニツコリ微笑む。

「夕波亭ならうちにことよ。」

やはり今日の百合奈はついている。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8253x/>

和風花伝

2011年10月22日21時27分発行